

- Microsoft Teams (コミュニケーションツール)
- YouTube (動画共有サイト)

Microsoft Teamsを使用した 初等英語科教育での「マイクロティーチング」

高橋美由紀 Takahashi Miyuki
(愛知教育大学教授)

筆者が担当している「初等英語科教育」は、免許状取得のための科目であり、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な外国語(英語)に関する背景的な知識、及び、小学校で英語を指導するための実践的な英語運用能力を身に付けることを到達目標としている。

現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「Microsoft Teams」(以下 Teams) や YouTube を活用した遠隔授業を実施している。Teams は同時双方向型の遠隔授業を可能とするアプリケーションであり、教材・課題提示及び学生のレポート提出等も Teams で行っている。

筆者が次の授業で使用する資料や文献、教材を Teams の「ファイル」にアップロードしておくことで、学生たちは事前にこれらを読んで授業に臨むことができた。特に、子どもの第二言語習得についての知識とその活用や教授法、小学校学習指導要領(外国語活動・外国語)年間計画や指導案の作成、学習評価等の理論面についての授業内容では、オンデマンドの動画配信の授業よりも学生達が主体的に学ぶことができた。

YouTube に上がっている文部科学省等が作成した教材(発音、Small Talk、クラスルームイングリッシュ等)や、筆者が提示した英語の歌やチャンツ、絵本の読み聞かせ等の教材については、実践指導の模範としてだけでなく、学生自身の英語力を向上させるための練習としても使用することができた。また、文科省の「新学習指導要領に対応した学習評価」学習指導要領編(校内研修シリーズ)や「小学校の外国語教育はこう変わる」等についても遠隔授業向けの教材として活用した。

ほとんどの授業は Teams を使用してオンラインで進め、学生達の練習の成果発表や筆者による講義やモデルを示しての実践指導等を中心に行った。そして Teams のチャンネル機能を使って、Classroom English・Small Talk 練習のペア活動、及び、指導案や課題に対してはグループごとの話し合い等、適宜「個人」「ペア」「グループ」を使い分けて授業を展開した。

マイクロティーチングに Teams を活用

対面授業のマイクロティーチングでは、クラス全体で1人の学生が教師役となり、その他の学生は児童役となっていたが、遠隔授業では、Teams のチャンネルを使用して1グループ6名(1クラス7~8グループ)ずつに分けて実施した。チャンネルはグループ内のメンバーで会話ができ、実際に作業が行われる場所である。また、チャンネルは全てのチームメンバーに公開することができる。

指導案やワークシート、パワーポイントの教材等のファイルは「共有」機能でアップロードすることで、グループの全員が見ることができる。指導は教師役単独の場合と、ALT 役と教師役でのチームティーチングの場合のどちらかで行うこととした。なお、授業は1コマ90分で、1回につきグループの2名がマイクロティーチングを実施するので、実際の小学校の授業時間の約3分の2(25分程度)で行うこととした。

マイクロティーチングの実際

(1) 視覚教材を活用した指導

教師役の学生(以下教師)は、コミュニケーション

活動で使用する語彙を、Small Talk を行いながら教科書の巻末にある絵カードを提示し(図1)、「聞くこと」の言語活動から導入した。次に、児童役(以下児童)が認識した語彙を発話へと繋げることができるように、絵カードを提示しながら音声教材としてチャンツを活用して指導した。



図1 絵カードの提示場面

(2) 児童役が自分の考えを伝え合う活動

「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力を育成するためには、コミュニケーションを行う目的や場面設定が大切である。児童が自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養うために、ここでは教師が世界地図や国旗、各国の有名なものを提示し、Small Talk で伝え合う活動を行った。次に、教師は“Where do you want to go?”の表現を示して児童に尋ねた。児童は絵を見ながら国やそこでのしたいことを選び、“I want to go to ~.” “I want to ~.”と自分の気持ちを伝えた。教師は児童の発話に合わせて、1文ずつ絵とセンテンスを提示した(図2)。このような文の提示は、児童が「基本的な表現を推測しながら読む活動」としても効果的であった。

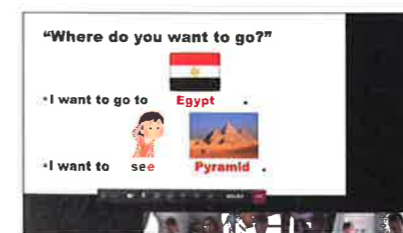


図2 パワーポイント教材と学生達の様子

(3) Teams の録画機能の活用とその効果

Teams には録画機能が搭載されていることから、教師が自分の指導を省察することや、積極的に他のグループのマイクロティーチングを視聴して、自分の指導に活かす学生もいた。さらに、マイクロティーチングの「再チャレンジ」コーナー

授業手順

全体とグループに分け、また、個人指導の時間は授業後等に行っている。なお、グループでは筆者が各グループを順次回って実践の指導を行った。



を設けており、グループ全員の同意を得て、自身が納得いくまで行うことも可能にしている。一方、筆者にとっては、学生が提出した課題レポート等のフィードバック、及び、成績をつける時のより客観的なデータとして活用することができる。

遠隔授業の課題

初めて遠隔授業を受けた学生達の反応は、「遠隔でも先生や友達の様子を見ながら授業を受けられて、通常授業と同じようにコミュニケーションも取れたのでとても良かったと思います」「1人で授業をする練習のいい機会だったので良かったです」「録画・録音できることで自分で振り返ったり、相手の発表をもう1回聞くことができるので良いと思います」といった肯定的な意見も一方で、「タイムラグがひどく、一緒に歌やチャンツができなかった」や「音声がぶつぶつ途切れて聞こえづらかったり、パソコンにトラブルが起って、授業時間以外で時間をとられた」等、今後の課題となる意見もあった。

